

どうすれば見直せる？ 学校の「あたり前」

弊誌では毎年度、全国の読者の先生方を対象としたアンケートを実施し、先生方からいただいたご回答を、次年度の弊誌の企画立案のよりどころの1つとさせていただいております（＊1）。昨年度の同アンケートでは、2025年度の弊誌で取り上げてほしいテーマについても伺ったところ、学習評価のほか、学校の「あたり前」の見直しに関連するテーマにも票が集まり、中でも管理職の先生方から多くのご要望をいただきました（図1）。それは学校を挙げての資質・能力の育成や変化する大学入試への対応、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）や働き方改革など、管理職のリーディングが求められる課題が山積し、これまでの「あたり前」を見直していかなければ、それらの課題に取り組んでいくことが難しいと感じられていることの表れではないかと考えられます。

また、中央教育審議会で現在、議論が進められている学習指導要領の次期改訂に関する論点整理では、「子どものより主体的な社会参画にかかわる教育の改善」が挙げられ、ルールメイキングなど、生徒にも「あたり前」を見直す力が求められています。

そこで今号の特集では、教師や生徒が自校の見直すべき「あたり前」にどうすれば気づき、それを見直すことができるのかについて考えてまいります。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 課題整理

育てたい生徒像を明確にすることが、「あたり前」を見直す鍵に
東京都公立小中一貫校管理職、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所
認定トレーナー、星槎大学大学院客員研究員 もき まさひろ 茂木正浩

P.8 事例1 業務負担の軽減／持続可能な探究学習

長野県野沢北高校

現場の問題意識に耳を傾けて課題を発見し、
若手・中堅の教師が中心となって取り組む

P.11 事例2 教師の勤務形態／部活動の実施形態

愛知県・私立滝中学校・滝高校

株式会社を設立し、勤務時間外の業務を委託。
有志の教師の労働環境を守りつつ、生徒の意欲に応える

P.14 事例3 業務負担の軽減

兵庫県・私立滝川中学校・高校

ICTを活用し、出欠や成績のデータを一元管理。
校務負担の軽減と指導の充実を図る

P.17 事例4 校則の見直し

せんまや 岩手県立千厩高校

生徒主体の校則の見直しを通して、
「自分たちが学校をつくる」意識を高め、行動を促す

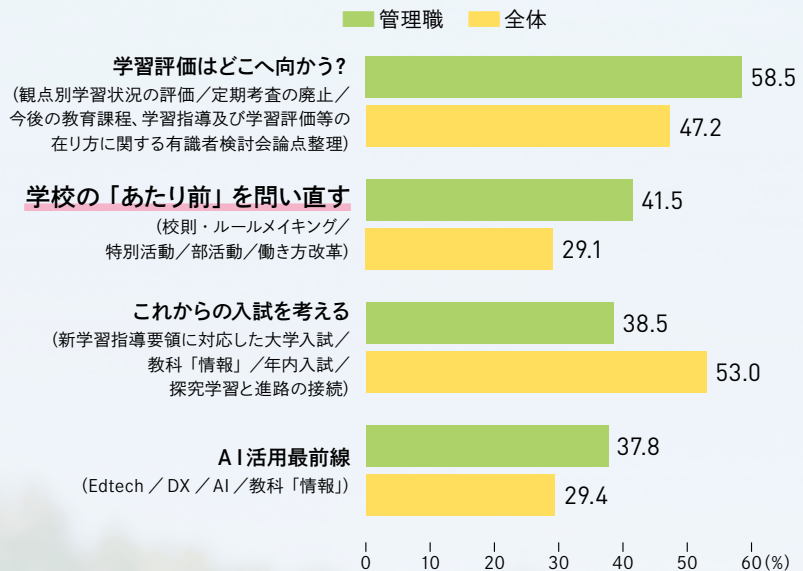
P.20 Column

教師だからできる、
生徒の「あたり前」の見直しへの伴走
認定特定非営利活動法人カタリバ まいこ 藤本雅衣子

＊1 今年度も本アンケートを実施いたします。今号の裏表紙裏の「off Shot」の下に掲載している「アンケートのご協力をお願い」をご覧ください、アンケートへのご協力をお願いいたします。

学校の「あたり前」に対する 教師の課題感

図1 2025年度の『VIEW next』高校版で取り上げてほしいテーマを教えてください。



注1：複数回答。管理職の回答の上位4項目を掲載。

注2：() 内の語句は、テーマに関連する教育課題・動向。

※『VIEW next』高校版「2025年度の誌面に関する読者アンケート」(24年10～11月に実施。回答数881)を基に編集部で作成。

*今年度も本アンケートを実施いたします。今号の裏表紙裏の「off Shot」の下に掲載している「アンケートのご協力をお願い」をご覧ください、アンケートへのご協力をお願いいたします。

図2 「学校の『あたり前』を問い直す(校則・ルールメイキング/特別活動/部活動/働き方改革)」というテーマにおいて、どのような課題感を持っていますか。

- 「あたり前」を問い直すことは、多くの学校現場が直面している課題だ。働き方改革では「働きやすさ」が目玉だが、「働きがい」とのバランスが重要だと感じている。(公立・管理職)
- 過去の実績や経験を重視する傾向が強い教師が多い。新しい取り組みを始めることに抵抗感があるからだろう。「あたり前」の見直しは、時にはトップダウンでやるべきだと思う。(公立・管理職)
- 教師が実施の目的を説明することができない学校行事が前年踏襲で続いたり、効率的な代替手段があるにもかかわらず、従前の手段が好まれたりしている。その風潮を何とか変えたい。(公立・学年主任)
- 社会が変化していく中で、学校だけが「これまで通り」というわけにはいかない。それでは学校というシステムが持続不可能だと考える。(私立・管理職)

※『VIEW next』高校版「2025年度の誌面に関する読者アンケート」の結果や高校への取材で得られた声を基に編集部で作成。

あ

「あたり前」になっていることには見通しを持って取り組むことができ、安定した結果が得られやすい一方で、形骸化や停滞を招きやすい面もある。学校現場からは、「『これまで通り』というわけにはいかない」という声が上がりがちながらも、「新しい取り組みを始めることに抵抗感がある」「実施の目的を説明することができない学校行事が前年踏襲で続いている」とい

先生方とともに
考えたい「問い」

自校の見直すべき「あたり前」に、どうすれば
気づき、それを見直すことができるのか。

った声もある。「あたり前」を見直す必要性を感じつつも、現状を変えられないジレンマがつかがえる(図2)。「あたり前」であるが故に見逃されがちなのに

どうすれば気づくことができ、固定観念にとらわれずに現状の課題を見いだし、よりよい教育活動を実現していけるのかについて考えていく。